

国際ワークショップ&レクチャー

自然を教育する？

コンテンポラリーダンスと能にみる身体の訓練

日時：2014年10月30日(木) 17:00～20:00

場所：大阪大学会館アセンブリー・ホール（豊中キャンパス）



ジャン＝ジャック・ルソー以降の児童教育では、子どもの自然性（純真無垢な感受性・創造性）を育むことが重視されてきました。しかし、それはこの自然性が既存の文化・社会の枠組みに貢献する限りで、という制約のなかでのことでもありました。ほぼ同様の逆説は舞踊の領域にも見られます。私たちにとって最も馴染み深く、かつ最もやっかいな自然＝身体を訓練し、それを美的に昇華させるとはどういうことなのでしょう？ 実際にダンス・ワークショップを体験しながら、西洋のコンテンポラリー・ダンスと日本の能を比較しつつ考えてみましょう。

主催：

日本学術振興会基盤研究（C）「英国における児童美術教育の成立と自然観の変容」（課題番号：24520110）

大阪大学コミュニケーションデザイン・センター

科研費
KAKENHI



自然を教育する？

参加無料、ワークショップのみ要事前予約（定員 30 名）

エリザベート・ダムール（ワークショップ、レクチャー）

British Association of Art Therapy、Winnicott's Squiggle Association、正会員。「身体の拡張」に関する講義を行うかわら、ダンス・ワークショップ「想像力との対話」を主催。

中尾 薫（レクチャー）

早稲田大学坪内博士記念演劇博物館助手を経て、現職は大阪大学大学院文学研究科文化表現論専攻准教授。専門は演劇学、特に能楽。共著に『観世元章の世界』（檜書店）。

スアン スティービー（同時通訳）

ハワイ大学大学院東アジア言語文学研究科博士課程に在籍（現在は京都精華大学マンガ学部にて在外研究中）。著書に『THE ANIME PARADOX』（Global Oriental）。

要 真理子（司会）

大阪大学コミュニケーションデザイン・センター招へい准教授。著書に『ロジャー・フライの批評理論—知性と感受性の間で』（東信堂）ほか。

大久保 恭子（コメンテーター）

京都橘大学人間発達学部教授。著書に『アンリ・マチスの誕生』（晃洋書房）、『〈プリミティヴィスム〉と〈プリミティヴィズム〉』（三元社）ほか。

前田 茂（コメンテーター）

京都精華大学人文学部准教授。要真理子との共著に『イメージ〈上〉イメージとは何か』、『イメージ〈下〉イメージと私たち』（ともにナカニシヤ出版）。

プログラム

- | | |
|---------------|---|
| 17:00 - 17:20 | 挨拶
要 真理子 |
| 17:20 - 18:20 | ダンス・ワークショップ
エリザベート・ダムール |
| 18:20 - 18:30 | 休憩 |
| 18:30 - 19:00 | 講義「即興ダンスとライブペインティングにおける挑戦」
エリザベート・ダムール |
| 19:00 - 19:30 | 講義「能の自然と身体 — 稽古理論を読み解きながら」
中尾 薫 |
| 19:30 - 20:00 | 質疑応答 |

ワークショップ以降、途中入退場可。ワークショップ参加者は動きやすい服装でお越しください。ワークショップと質疑応答では日本語・英語の同時通訳を行います。また、エリザベート・ダムールの講義では原稿の全文和訳を、中尾薫の講義では同全文英訳を資料として配布します。

お問い合わせ、ワークショップの事前予約は、大阪大学コミュニケーションデザイン・センターまで——

■ 電話：06-6850-6632

■ e-mail：zenkyo-insoumu@office.osaka-u.ac.jp

*ワークショップへの参加申し込みは定員 30 名に達し次第、終了します。



大阪府豊中市 1-13
大阪大学会館アセンブリー・ホール

阪急「石橋駅」より徒歩 15 分

大阪モノレール「柴原駅」より徒歩 15 分

（お車でのご来場はご遠慮ください）